

令和7年度 第2回鹿島市水道事業審議会 議事録【概要版】

1. 日時：令和8年2月24日（火）10時～11時30分

2. 開催場所：新世紀センター 2階 会議室

3. 出席者

(1) 委員：池田委員、片淵委員、亀井委員、唐島委員、合六委員、田口委員、
武富委員、淵上委員、迎委員、森委員、吉田委員

(2) 事務局：中村水道課長、田口課長補佐、椛島課長補佐、
松尾管理係長、富岡工務係長

4. 内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

事務局：「鹿島市水道事業ビジョン（案）」について説明

(4) 質疑応答

A 委員：4ページ第3章の「持続」で項目は「民間委託の推進」に「水道広域対応の取り組み」と挙げてありますけれども、これについて具体的な説明をお願いします。

事務局：水道の民間委託の件ですが、メーター検針と水質検査は民間委託しています。

県の水道ビジョンの中で、最終的な目標としては県内全地区を1水道事業体として目標に挙げられています。今後、経費削減の面や職員の減少による技術的な不足等もありますので検討していくべき課題の一つと考えています。現在、会計や料金のシステムに関しては、佐賀西部広域水道企業団と佐賀東部水道企業団、佐賀市上下水道局と共同で令和8年度から運用するようになっています。

A 委員：美味しい地下水が飲めなくなるのかなとちょっと不安に感じました。

事務局：2ヶ所ある井戸が劣化して目詰まりを起こし、取水量が不足する事態が生じましたが、井戸を洗浄することで一部回復し、使えるようになりました。このため浄水場の整備等も検討の一つとして今回の計画に入れていきます。

B 委員：このビジョンでは、現況の水源地、送水ポンプ場の配水管等の布設替えの時期に行って維持管理をしていくということですが、令和 8 年から令和 17 年までの間に、施設の老朽化に伴う布設替えと大木庭浄水場を作って 1 配水池で鹿島市全部を賄っていく方針との検討はされていますか。

事務局：鹿島市の水道事業は、昭和 63 年に変更認可をいただいています。これは、今後人口が増加して水が足りなくなるという予測のもと中木庭ダムを担保に水を確保し、川の水を取水して地下水から切り替えていくという認可になります。しかし、人口が減ってきて水が今のところ足りているということで、中木庭ダムは完成し、大木庭浄水場の予定地を整地まで行っている途中で中断している状況です。浄水場の整備にすぐに取り掛かるという状況ではありませんが、今後井戸の取水量が不足する事態になる可能性はかなり高くなってきています。

B 委員：財政投資計画の説明の中で、2026 年の人口と 2035 年の人口の差が結構あります。昨年、水道料金を値上げされました。結果的に水源池を統合して一つの浄水場を作るという関係で、水道料金を上げるのは仕方ないと思いますが、値上げを低くすることを目標として対策を考えられているのかということをお聞きしたい。

家庭の中での水道水を使う量が減っても、水道料金、水道管の維持費としては続いていますので、もっと十分考えた上で水道料金を上げなくてもいいように、人口との比較を検討して料金反映をしていただきたいと思います。

事務局：大木庭浄水場を作る当初の計画で多額の事業費が発生するという試算でした。現在の施設をなるべく使って、井戸の不足する分だけを取水し、段階的な整備を行いたいと考えています。この後ご説明する中長期財政計画の中でも検討していますが、なるべく経費削減し、長期間持たせていきたいと考えています。

(5) 議事

事務局：「鹿島市水道事業第 2 次中長期財政計画（案）について」説明

(6) 質疑応答

C 委員：浄水場を整備する場合と整備しない場合で、料金改定の率や改定する時期が変

わってくると思います。浄水場を整備する可能性の方が大きいでしょうか？

事務局：大木庭浄水場自体は今のところ水が足りていますので当分の間見送ることができると思います。ただし、急に水が足りなくなるということも視野に入れて検討しておく必要があります。今回の整備時期に関しては、一番早い時期に整備するとしたら、このようになるというシミュレーションをしています。

D 委員：資料 14 ページに「浄水場整備あり」とだけ書いてありますが、ダムの水利権は、取水量は 1 万 5000 トンで、ここに掲げられている整備事業費 11 億 5000 万は、全ての浄水場を整備するのか、井戸の枯渇になる分を段階的に整備されるのか。全体のうちどれくらいの割合を整備するのかを示した方がいいのではないかと思います。

事務局：大木庭浄水場の計画取水量は 1 日当たり 1300 立方メートルで、約 12 億の事業費ということで計画しています。今回上げているシミュレーションの中では最低限の整備で考えているところです。

D 委員：有収率の現状は約 75%で、4 分の 1 が漏水しているということになります。鹿島市の有収率が低いのは、老朽管だけなのか。導水管で漏水しているのかそれとも配水管がメインで漏水しているのかが気になります。

事務局：有収率は、配水池から水道管に流れ込む水に対して、各家庭につけているメーターを通った水量との差になります。市の取り組みとして、漏水調査を毎年行っています。その調査報告では、本管から家の方に引き込む給水管からの漏水が 6～7 割となっています。市の漏水調査で見つけた際は、水道メーターまではなるべく修理するようにしています。今年度、衛星による新しい漏水調査方法を取り入れて実施していますのでご紹介します。

事務局：衛星を使った漏水調査について説明

E 委員：今日のこの審議会の中で資料を見させていただいて、令和 6 年度に一度、料金改定をされているので、今後 5 年ごとに見直して、そのまま上げ続けていいのか、市民の

方にとってきついことになるのではないかと感じています。

ふるさと納税制度がありますが、場合によってはこれを水道の老朽化に充てるという考え方もできるのかなと思いました。鹿島市水道事業としては料金値上げを抑制させるために使わせてくださいと要望していいのではないかと思います。市民の方に何が一番求められているかということを考えて、こういった維持管理に資金を回していくことで、住民の負担が少しでも減れば、料金が上がる部分も理解されるのではないかと思います。

事務局：ふるさと納税に限らず、一般会計からの繰入ができるかというところが基本になると思います。負担を抑えるために、今後検討したいと思います。審議会において委員の皆様にお諮りしつつ、いろいろなご意見をいただきたいと思っています。

F 委員：鹿島市の水道料金はよそと比べて高いですか安いですか。

事務局：前回料金改定をさせていただいたときは、通常使われているご家庭で比較すると高い方であったかと思います。令和 8 年度に佐賀西部広域水道企業団も料金値上げを予定されていますので、真ん中か、少し上ぐらいになるのではないかと思います。

F 委員：広域連携の検討事項で、西部広域と一元化になったら同じ料金に一気に上がったりするのでしょうか。

事務局：同じ水を供給しているのに値段がバラバラというのはおかしいということで、段階を踏まえて最終的には一律に持っていくというのが全体的な流れかなと思っています。

(7) その他

事務局：「寒波漏水減免」、「物価高騰対応水道料金負担軽減事業」について説明